5/27 赤旗

新型コロナウイルスなどのウイルスＲＮＡ（遺伝情報）を１個ずつ識別し、迅速に高感度で検出できる全自動検出装置を理化学研究所や東京大学などの研究グループが開発し26日、公開しました。

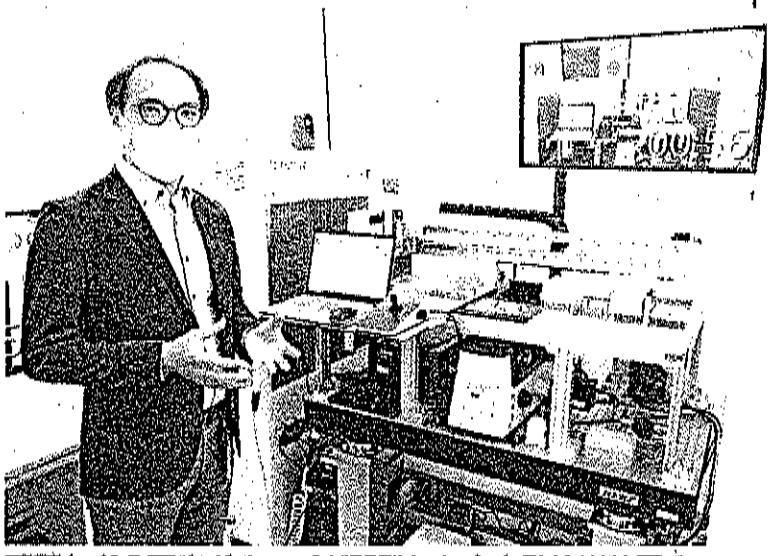
コロナ検出まで９分以内

理研などグループ 全自動装置を開発

検出感度はＰＣＲ法と同等で、変異株の判定も可能。検体の調整からウイルスＲＮＡの検出まで全自動で９分以内に完結できます。ランニングコストは、１検査あたり約230円で、ＰＣＲ検査法や抗原検査法と同等だといいます。

さまざまな種類のウイルスを検出でき、次世代の感染症診断装置として期待されます。

開発した理研の渡邉力也主任研究員は「メンバーに恵まれ、研究室一丸となって研究開発を行ってきた。引き続き共同研究しながらいち早い社会実装を目指していきたい」と述べました。



理研などの研究グループが開発した全自動検出装置の説明をする渡邉主任研究員＝26日（埼玉県和光市）